

今回紹介する団体: 水土里ネット新潟

取組概要

内容:.....ほ場整備調査計画時、平面図CADデータを国土地理院「公共測量成果検査支援ツール」によりSHAPファイルに変換。属性情報にほ区番号を入力し、図形情報の面積やポイントに変換されているテキスト情報(耕区番号、畦畔長)を一括で取り込むことでデータベースを作成し、エクセルに貼り付けることで整地工面積調書の作成を簡素化する。具体的には、CADで作成した調査計画の耕区(面)等をSHAPファイルに変換し、GIS上で図形情報(ジオメトリ:面積、延長)を属性情報に取り込み、CADとEXCELへ出力する。

経緯:.....調書作成時のヒューマンエラーを削減するため、GISの「SHAPファイル図形情報(面積、延長等)を属性情報に取り込み、出力する」機能を利用する事でCADで作成した図面の面積や延長を短時間で計測可能となった。

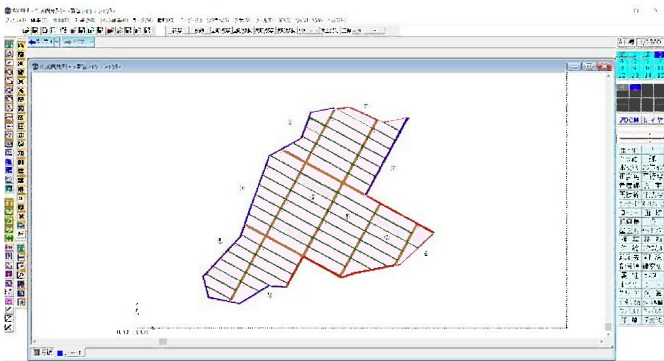


図-1 CADで作成した計画図

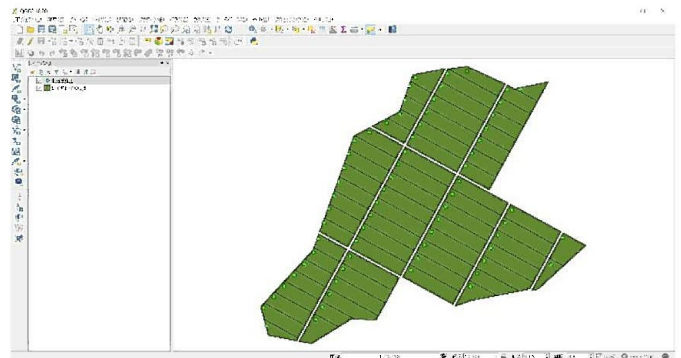


図-2 図1をSHAPファイルに変換

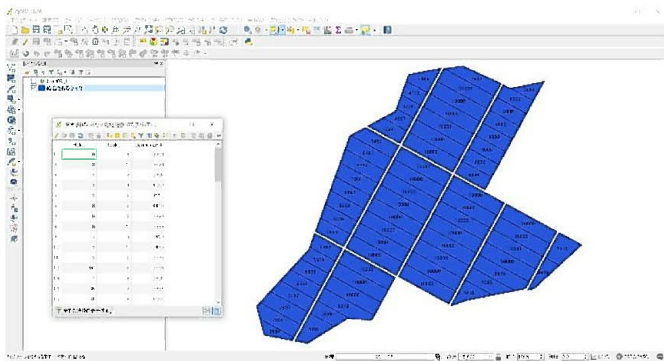


図-3 耕区番号を一括取込み、圃区番号を入力し、図形情報(面積)を属性情報に取込み

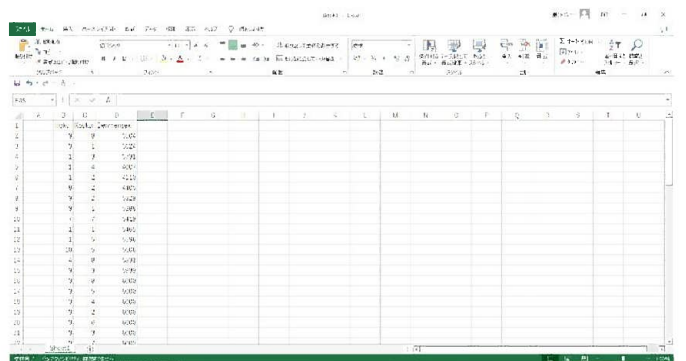


図-4 図-3の属性情報をクリップボードへコピーし、EXCELへ貼付け

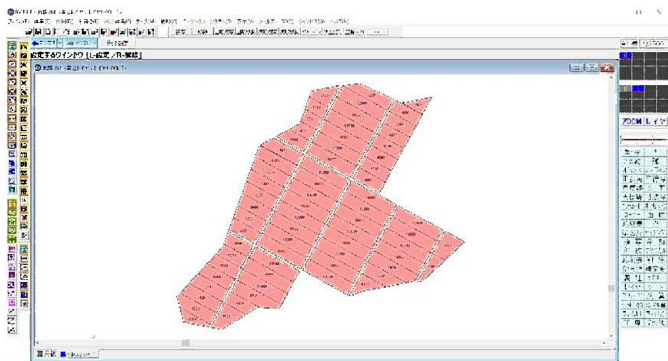


図-5 図-3で面積を出力した状態でCADデータへ出力

取組による効果

従来であれば半日～1日以上かけていた作業が地区面積に関わらず30分～2時間程で可能となった。また、GISの機能によりCADとEXCEL双方に同じ値を出力するため、ヒューマンエラーによる入力ミスを軽減する事が出来た。

今後の活用予定

現時点では操作方法に慣れが必要でありマニュアル化する必要がある。

GISシステムのバージョン情報

QGIS 3.24

■お問い合わせ先

新潟県土地改良事業団体連合会技術部情報課 (025-286-1193)